

## 2023 年度日本消化器外科学会賞受賞講演 消化器癌の発育進展機序の解明と新規治療の開発

2023 年 7 月 12 日 (水) 18:00-18:30 函館国際ホテル 2 階 高砂

### 消化器癌の発育進展機序の解明と新規治療の開発

馬場 秀夫<sup>1</sup>

1:熊本大学大学院消化器外科学

大学医学部卒業後、外科医として約 40 年間一貫して消化器癌の診断・治療に従事してきた。また、消化器癌の発育進展の機序解明に関する基礎的研究や、術後合併症発症に関与する因子の解明、治療効果予測・予後予測のバイオマーカー探索、NCD の大規模データを用いた解析、臨床試験の結果など、多くの臨床的研究も精力的に行ってきた。これまでの基礎的・臨床的研究の成果は日本消化器外科学会 (2006 年～22 年の消化器外科学会総会での発表演題数 738 題) などの国内外の学会で発表するとともに、一流英文誌に 1300 編以上報告してきた。消化器癌の進展機序に関する代表的基礎的研究としては、1) 消化器癌と腸内細菌叢との関連、特に食道癌の予後と *Fusobacterium nucleatum* の関連を世界で初めて報告、2) がん関連線維芽細胞 (CAF) と胃癌の増殖・浸潤、抗癌剤抵抗性との関連、3) 転移因子である LINE-1 と各種消化器癌の関連、4) 消化器癌の癌幹細胞の特性、5) 消化器癌、特に胃癌の腹膜播種形成機序と治療標的分子の解明、などに関して報告してきた。臨床的研究としては、1) 術後合併症と予後の関連ならびに合併症予測因子の多角的解析、2) サルコペニア、フレイルと消化器癌の予後、3) NCD データに基づく治療成績の解析、4) 消化器癌組織におけるリンパ球浸潤や PD-L1 発現と予後、5) 大腸癌肝転移に対する conversion surgery の成績など、消化器外科手術・補助療法・周術期管理などの観点から報告してきた。外科治療の遠隔成績を向上させるためには、単に術式の開発のみならず、術後合併症を予防し、周術期の補助療法の開発が必要不可欠である。また、NCD の data 解析の結果から、一定以上の手術症例数を確保することが短期・長期の成績に影響を及ぼすことから施設の集約の必要性も検討する必要がある。外科医が減少する中で実施される医師の働き方改革で労働時間が規制される中、今後の研究の質の担保に関しても十分検討する必要がある。今後、ロボット支援手術の更なる普及、周術期における ICI の投与、AI を用いた適切な診断と効率化など、消化器外科治療の進歩による治療成績の向上につながる研究と新規治療法開発に関与する研究を精力的に進めたいと考える。